

平成23年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト
団体等名	福島乳幼児妊産婦 学生ボランティア
学生代表者氏名 (所属・学年)	宇都宮大学 国際学部 国際社会学科 4年 須田千温
責任教職員氏名	宇都宮大学国際学部准教授 阪本公美子

1. 事業名	ママ茶会+α
2. 実施時期	H23/4/21 ~ H24/3/30
3. 実施場所	宇都宮大学 栃木県内他
4. 事業の内容等	<p>【事業概要】 本プロジェクトは、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電事故後、放射能汚染による健康被害の不安を抱える乳幼児や妊産婦を含む家族と、現在福島県から栃木県内に避難中の乳幼児や妊産婦を含む家族を対象としたきめ細かいサポートを実施している。事業名にある「+α」とは、ニーズ対応の一環である「ママ茶会」実施前までのプロセスとしての事前聞き取り調査と実施後のプロセスとしての対応を意味する。</p> <p>【具体的な事業内容】 プロジェクト全体との協同の活動として、乳幼児 妊産婦家庭に対する、避難所・お茶会・メール相談によるニーズ聞き取り調査に協力し、学生が主体として情報収集した住宅情報の提供(住宅マッチング)、家財道具、保育サポート(託児、保育園・幼稚園の情報提供)など、個別のニーズに合わせたサポートを行っている。</p> <p>学生主体の活動では、妊産婦さんや乳幼児をもつお母さんのストレス解消や孤立を防ぐためのお母さん同士のネットワーク構築、ニーズ聞き取りを目的とした、おしゃべりボランティアやお茶会を行っている。</p> <p>◆第一回ママ茶会 日時：2011年6月24日（金）13：30～15：30 場所：宇都宮大学 コモンルーム 福島からの妊婦さん1人、お母さん4人、お子さん5人（0才～7才まで） 宇都宮からの妊婦さん1人 助産師さん1人 避難所の赤ちゃんに肌着を届けるプロジェクト500関係者2人 NPO法人 仕事と子育て両立支援センター エンジェルライン関係者2人 本プロジェクト宇都宮大学教員3人 学生ボランティア11人 国際学部附属多文化公共圏センター1人 ママ茶会の中では、お母さん方が話をする場所とお子さんが遊ぶ場を分けた。そうすることにより、お母さん方には心おきなく互いにお話できる場を</p>

、お子さんたちには学生ボランティアと自由に遊べる場を提供することができた。また、別部屋で個別相談室を設け、参加者の相談に応じた。ご参加いただいたお母さん方からは「お茶会ありがとうございました。子供たちも遊んでもらってとても楽しそうでした。またお願いします。」「助産師さんに色々とお話を聞いてよかったです。色々いただいて助かりました。」という感想をいただいた。(ブログに詳細あり <http://sicpmf.blog55.fc2.com/blog-entry-26.html>)

◆クリスマスママ茶会

日時：2011年12月24日(土) 11:30~14:30

場所：コミュニティーカフェ ソノツギ 土曜日担当「Café VIMALA」

福島からのお母さん4人、お父さん1人、お子さん5人 (0才~5才まで)

助産師さん1人

本プロジェクト宇都宮大学教員2人

学生ボランティア6人

とちぎ男女共同参画センター パルティ 職員2人

Café VIMALA スタッフ (宇都宮大学学生) 5人

ご参加いただいたお父さん、お母さん方にはカフェでお昼ご飯を食べながらゆったりとした雰囲気の中お互いにお話をし、大きいお子さんは学生ボランティアと遊び、乳児は助産師さんやパルティ職員さんに見ていただいた。この日がクリスマスイブということもあり学生がサンタクロースに扮して参加者の方々に本プロジェクトに対していただいた支援物資等をプレゼントした。こちらでは「とてもみなさん親切な方で良かったです。又、子供を見てくれて、他のママとお話できて楽しかったです。」「クリスマスの忙しい時期に皆さんがいろいろと準備して頂いて下さり本当に有難い思いで一杯です。」という感想をからいただいた。(ブログに詳細あり <http://sicpmf.blog55.fc2.com/blog-entry-114.html>)

◆第3回ママ茶会

日時：2012年3月17日(土) 13:00~16:00

場所：とちぎ男女共同参画センター パルティ

福島からのお母さん3人、お父さん2人、お子さん0人

本プロジェクト宇都宮大学教員3人

本プロジェクトコーディネーター1人

学生ボランティア7人

とちぎ男女共同参画センター パルティ職員 3人

カウンセリング学会栃木県支部会 4人

保育スタッフ 3人

とちぎ男女共同参画センターさんに後援としてご協力いただき場所をご提供いただいた。お母さん方、お父さん方には和室でおしゃべりを楽しんでいただき、カウンセリングの方にも加わっていただいた。お子さんは子どもの部屋というプレイルームで保育の方と学生ボランティアと遊んだ。

【関連記事リスト (時系列)】

下野新聞(2011年6月21日)「学生企画交流の場に 避難の妊産婦手助け 宇大で24日「ママ茶会」

東京新聞(2011年7月7日)「妊産婦、乳幼児の不安・・・支援の宇大教員ら「自らの問題として考えて」

	<p>毎日新聞 (2011年7月14日) 「避難が家族離散と対立を生む 福島的生活調査 過酷な現状報告 宇大」</p> <p>栃木よみうり (2011年7月29日) 「乳幼児や妊婦支援 …… 宇大ボランティア」</p> <p>パーティ情報誌 (2011年12月) 「特集 災害と男女共同参画 VOL.2:できることをしたいと活動する大学生たち」 vol.131,p.5</p>
<p>5. 事業の成果と今後の課題</p>	<p>【事業の成果】</p> <p>第1回ママ茶会の参加者のアンケートの中で、お母さん方の話す場所とお子さんが遊ぶ場所を別にすることで、思う存分お話と遊びに集中できたという声を頂いた。このことは、本プロジェクトの目的でもあるお母さん、お子さんのストレス解消につながった。また個別相談も頂き、より多くのニーズを聞き出すことができた。特に第2回を開催してほしいという要望を多く頂き、ママ茶会が本プロジェクトの対象者にとって重要なニーズがあるということを確認した。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>東日本大震災から1年が経過し、避難されてきた乳幼児を抱えるご家族や妊産婦さんのニーズもプロジェクトを始めた当初から多様になってきている。多岐に渡るニーズを聞き出すため、また応えていくためにも毎回似たようなママ茶会を開催するのではなく企画を工夫していくことの重要性を感じている。お茶会は他の団体や地域でもいくつも開催されているので、私達学生だからできること、学生にしかできないことを積極的に行っていきたいと考えている。例えば、相談会というよりは交流会がメインのお茶会である。これであつたら、学生らしく学生の良さを発揮しながら、ママ茶会を盛り上げられるし、お母さん方の中でも多い「友人が欲しい」というニーズに応えられるのではないだろうか。また、子どもと一緒に活動しながら他のお母さん方と交流できるものも視野に入れながら考えていきたい。そして、イベントとして開催するママ茶会以外にも、避難されてきた妊産婦さん、お母さん方が日常的に集まり、情報を互いに共有することができるサロンのような場の必要性を感じている。他にも、宇都宮のマップ作成も考えている。お母さんの中で、子どもをどこの病院に連れて行けばいいかわからないという意見が多々あつた。知らない土地で、その土地の知り合いもあまりいないという方が多く見られるので、自分たちで実際にその場所に行ってみたり、評判を聞いたりして、既製品のマップよりもリアルなマップを作成する。そのマップに他にもおすすめのお店も掲載し、避難してきたご家族に少しでも役立つ宇都宮の生活情報を提供したい。以上のことを実現させていくためには、クリスマスママ茶会にもあつたように他団体と協力が不可欠であるため他団体との関係拡大を目指している。</p>

- (注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。
報告書 (添付書類を含む) はA4判5枚以内にまとめてください。
3. この報告書は、各関係機関等に公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を考えております。また、次年度以降の学生生活活動支援事業に役立てていきたいと思っております。

福島乳幼児・妊産婦ニーズ対応プロジェクト 宇都宮大学学生ボランティアグループ (FnnnP Jr.)

できることを
したいと活動する
大学生たち

宇都宮大学国際学部の阪本公美子准教授を中心に、学生ボランティア14名が活動しています。福島から震災で避難している妊産婦や乳幼児家族に、ネットワーク作りのお茶会、親子キャンプ、そして避難者・避難希望者と住宅提供者をつなぐ「住宅マッチング」などの支援活動を行っています。中心的に活動する濱田清貴さんと瀬川彩さんにお話を伺いました。

6月24日(金) ママ茶会開催

妊婦1名、母親5名、0～7歳児童6名参加
助成：コンソーシアムとちぎ
協力：NPO法人 エンジェルライン

震災後、学生が避難者へ個別に聞き取りを行ったところ、「話し相手が欲しい」という声から、ママ茶会を開催。



現在住んでいる
宇都宮の情報を
得ることができました。

助産師さんに
話が聞けて良かったです。



参加した子どもたちは、震災以来、初めて同世代の友達やボランティアの学生と、おもいっきり走って遊ぶことができ、大喜び。参加者の声より、ママ茶会のニーズを再確認し、現在、第2回目ママ茶会を企画。

10月22日(土)・23日(日) ちびっこキャンプ開催

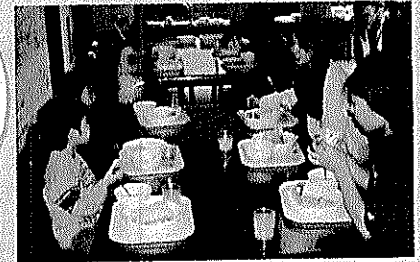
3家族(父母6名、1～6歳児童7名) 栃木市内家族(親1名・子1名)参加
助成：宇都宮大学峰が丘地域貢献ファンド
協力：NPO法人 エンジェルライン、
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト

ママ茶会の際、「外で子どもを遊ばせたい。親たちは子どもと離れて少しゆっくりしたい。」という要望から、ちびっこキャンプを開催。



保護者からは
「子どもの楽し
そうな顔を見
ることができ
良かった」との
声。

地元農家からいただいた野菜を使い、学生が中心に作った食事は大好評。ボランティアの学生は、自分たちでもできることがあると自信になりました。



「民間住宅の借り上げ説明会などに出向いてチラシを配ったり、新聞に掲載してもらったりしPRしました。避難者に直接聞き取りをする中でニーズを伺ってきましたが、「避難したくても避難先がない」「被災者が不満を言えなくなっている」など問題は深刻化しています。現在は4年生が中心の活動を、今後は2、3年生に引き継ぎ、このプロジェクトを長く行っていきたいです。また、今後はいろいろな団体と連携も取っていく予定です。」

2012/3/17 第3回 22茶会 @ パルティ 122



2011/6/24 第1回 22茶会 @ 筑波大学 122